

検討課題に対する第2専門委員会委員の検討状況・方向性

資料5

2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方

平成18年12月11日

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
<p>社会等の変化や今後についての共通認識</p> <p>・社会の変化</p> <p>・企業の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青森県を含め地球規模のグローバル経済の中にある中で、日本の暗黙の了解という部分がなくなり計算と交渉のビジネスライクな社会になっている。 ・ 高齢社会に入っているため、青森県も人口が減少する時代を迎えている。 ・ 産業構造の変化により、人間として最低限のルールをベースに、交渉・計算しながら仕事をして行く人間が増えるだろう。 ・ 言葉では「産業構造の変化」となるかもしれないが、根本的なものは変わっていない。 ・ 小・中学校でゆとり教育を実施した結果、やや安易に流れる面が出てきている。 ・ 若年層での離職率が高いのは、入口と出口が旨く繋がっていないからではないか。 ・ フリーターでも飯が食べれる世の中が逆に子ども達に悪影響を与えている。この責任は学校に求めるのではなく、親をなんとかしてはいけない。 ・ 人材育成は入社してからでもできるので、高校や大学を卒業して入社してくる人に即戦力を求めているのではない。 ・ 以前は技術的な事も重要な要素だったが、最近はスペシャリストとしての求人は上級の学校からで、高校生には指導された時に素直に「はい」と言えて、言われた事を実行できるような人柄的な事を求めている。 ・ 課題発見能力、課題解決能力、集団の中で自己の役割を自覚し共同で物事を解決していく、そういう社会人として色々な場面で活躍できるような識見が求められている。 ・ 企業にしてみれば、高卒だろうが何だろうが即戦力が欲しい。 	
<p>学科・コース等の今後の方向性</p> <p>(ア)各学科・コース及び系列の検証</p>	<p>【高校全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産業構造や社会の変化によって高校生が働けなくなったのではなく、高校生全般に対する、だらしがない、挨拶ができない、一般常識がない、といった見方により、高校生とは一緒に働けないと思われる。 ・ 高校生は駄目だという社会の評価を挽回するためには、全ての高校生が基本的な教科を学び、しつけ、挨拶、時間を守る事、目的意識、勤労観や職業観を身に付ける必要がある。 ・ 進学校以外は、ビジネススクール的な部分を必要とする。 ・ こういう仕事に就きたいと自覚し始める時期がかなり遅いという実感を持っている。中学校の時点で方向性を決めて、高校を卒業したらすぐ仕事に就ける状態でないといけない。 	

2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニートや離職を防ぐには、学校が全てを教えるのではなく、インターンシップ等で実際の社会を重視し普段から常に社会と接触する経験を持つ必要がある。 ・ 離職率が高いので、キャリアカウンセリング等の職業教育が大事ではないか。 ・ 生徒の進路志望の多様性を重視して特色ある学科の設置を行ったと思うが、あまりに生徒の進路志望の多様性ばかりを考えてもいけないのではないか。基礎・基本をしっかり勉強させる事が全ての高校に課せられた課題ではないか。 ・ 県の地域戦略や特色に即した学校教育も必要ではないか。 ・ 急がせられ、選択を迫られているという印象がある。 ・ 総合学科等、選択するメニューがものすごく多く、親も子どもも分かりにくいのではないか。 ・ 大学全入の時代に、大学進学率の向上を目標とする事自体が正しいのか。 ・ スペシャリストを養成するという社会の要請がある一方で、ジェネラリストとして基礎・基本を大事に育て、それから進路を決めて行く方向もあるのではないか。 ・ 今の高校生は、同輩で社会に出ている人が少ないので、社会に関する情報が集まらない。 ・ 今の子ども達は目的意識を持ちしっかりしている子もいる。 <p>【普通高校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師や保護者が思うほど、生徒達には大学進学に対する強い意識はなくなってきているので、進路指導をきちんとしないと次へつながっていかない状況がある。 ・ 普通高校においても職業教育、挨拶、協調性、基本的な人間性・社会性を教えるべき。 ・ 全日制普通高校で学年1学級のみ存在する英語科、人文科、理数科等については生徒が入学時には選び切れていない等の理由で、機能していない部分がある。 ・ スポーツ科学科以外は将来的に廃止し、1校に集約する。 <p>【総合高校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の将来がよく分からない生徒が多く入学してくるので、「産業社会と人間」やインターンシップを通じて自分の将来像や夢や生き方について考えさせる事ができる非常によい仕組みだ。 ・ 学級数が少ない場合は教員数が少なく、思うように選択科目をたくさん設定できない難点がある。 	<p>町村部の普通科はコース制をとるとしたら、専門性を高めるようにするか、多少選択科目を増やすことで対応し、廃止してはどうか。</p> <p>理数科、外国語・英語科については、国際化、情報化、科学技術の発展の中で、社会や経済のグローバル化が急速に進展し、異文化・異文明との共存や持続可能な発展に向けての国際協力が求められるとともに、人材育成面での国際協力も加速しており、理数科を基盤とする科学技術教育や外国語教育などは、学校教育において重視して取り組むべきものであることから、設置している学校においてはさらに充実させるとともに、未設置の地域については設置を検討するとともに、定員に達しない英語科については振興・充実について検討する必要がある。</p> <p>人文科、理数科、英語科、(外国語科)等で、志願倍率が定員に達しないところは、存廃を含めて特色ある学科のあり方を検討する必要がある。</p> <p>総合学科高校は、各校とも総合学科に改編される前と比較すると進路実績面での成果が見られるものの、進学では普通科に、就職では専門学科に水をあけられている現状から、再編も含めて見直し、生徒のニーズに対応した系列の充実を図るべきである。</p>

2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選択科目の多い単位制普通高校的な役割であったり、生徒が自由に科目選択するのは難しいといった状況が見られ、理念・特徴を十分に活かせていない。 <p>【職業高校全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔は職業高校はスペシャリストを育成する事が使命だったが、産業構造の変化により高校卒業後に即戦力という事は難しくなった。 ・ 最近では専門教科を学んで、更に上級の高等教育を学ぶ生徒が増えているので、その土台を作るのが専門高校の役割ではないか。 ・ 進学者は増えているが全員が進学する訳ではないので、労働の価値・意義、目的意識を植え付けるキャリア教育に力を入れている。 ・ 青森には学校で培った能力を活かす事ができる職場がない。 ・ 職業高校の学科改編は必要だが、普通校だけを増やして行くという流れはおかしいのでは。 <p>【農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状としては、農業高校を卒業してすぐに農業自営する事は無理があり、営農大学校や研修施設へ行って更に勉強してから就農するように勤めている。 ・ 各学校で学科名が異なるものでも、教育内容と学科のつながりで関連付け分類できるものがある。 ・ 地域の農業の担い手育成と、農業分野に固有の価値観や勤労観を有する人材の育成が目標であり、地域の農業形態、志望者、適切な学科やコースについて、その在り方を検討し方向性を出し、大胆な学校の統廃合を含めた学科の再編が必要である。 <p>【工業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2007年問題という事で日本が持っていた技術が脅かされているが、やはり日本は技術立国であるので、必要な人材を輩出するためには教育の力が必要だ。 ・ 日本の産業が復活しつつあり、県も企業誘致をしている中で、やはり受け皿となる人材は県の中で育成して行く必要がある。 ・ 現在は工業高校で学んだ内容が、現場ですぐに役立つ事はほとんどなくなり、むしろ素直な人間性や物づくりの精神が求められるようになった。 	<p>農業・工業・商業・水産・家庭に関する専門学科については、技術革新や社会の進展とともに、生徒や産業界のニーズ等と必ずしも合わないところが見受けられるので、高校卒業後の進路状況等も踏まえ、学科や系列の整理・統合を考えるべきである。</p>

2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学受験の勉強をさせるための高校だけでなく、特色ある学校や技術者を育てる学校において、実力を付けさせ自信を持って社会へ出させるという視点も必要だ。 ・ 就職が確保されているという利点はあるものの、進学者が増え進路先も多様になっている状況においては、専門的な知識を早期より学び将来のスペシャリストとして育てる事が重要ではないか。 <p>【商業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かつては商業高校からは、金融機関、証券会社、ソフトウェア会社へ就職が決まっていたが、最近はほとんどそういう会社へ入る事ができず、専門教育を受けながらも将来の道が開けないのが現状。 	

2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
<p>学科・コース等の今後の方向性</p> <p>(イ)これまで設置した学科・コースの今後の在り方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯にわたる学習が求められる現代では、工業高校においては、生徒が進学、就職のいずれを選択するにしても継続教育を前提とし、専門性の基礎・基本を重視した教育課程が求められると考える。したがって工業高校では、細分化・専門化した新たな学科の設置よりも、「ものづくり」と基礎・基本を重視し、既存の学科の在り方を整理するのがよいと考える。 ・ 農業や工業そして商業などの専門高校では、特色を出そうと工夫した新しい学科(学科名)をつくったが、逆にその名称から学習内容を想像することが難しく、中学生の募集や地域での理解に影響があると考えられる。学科名はシンプルに、学習内容を濃くしたほうがよいと考えます。 <p>たとえば、農業高校では草花や野菜そして果樹などを中心に学ぶ学科を、従来は園芸科と呼んでいたが、今では園芸科学科から始まり、生活園芸科・園芸活用科・園芸経営科・園芸工学科・園芸クリエイト科・園芸ビジネス科・園芸システム科・園芸サイエンス科・更にはフラワーファクトリー科・フラワークリエイト科など多種多様である。(青森県内においても同様なことが言える?)つまり時代を先取りしたつもりで、難しくしたり、カタカナ名の学科が増えたが、学習内容が見えてこない現状がある。このように、学習内容(カリキュラム)は似ていても学科名が違うなど、世間を納得させるには多少無理がある面も否定できない。</p> <p>結果、学科を細分化(専門化)して、高度な知識や技術を習得させることは必要であるが、そのことが進路と結びつかないことに疑問もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「社会や産業構造の変化により、専門高校に技術や技能を高いレベルで望んでいる人は少なく、むしろ人間性や一般的な基礎基本をきちんとしてほしい(GD会議第2回検討会議F委員、P7参照)」もちろんこればかりではないと思うが、この発言が専門高校の専門性とは何か、学科とは何かを根底から考え直す機会になるのであろうか。 ・ 定員割れ等の問題もあり、見直しは必要。 <p>生徒・地域・社会などの利用者側の要請を把握して、設置目的を明確にする。</p>	<p>理数科・英語科については、重視して取り組むべきであることから充実して存続させる必要があるとの意見である。一方、コース制とし普通科への改編を図るべきであるという意見もある。</p> <p>農・商・工を統合した新たな総合的専門高校を創設した方がよいという意見がある反面、教育内容や教育方法が大きく違うので、統廃合には慎重を要するという意見もある。</p>

2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業高校の立場から考えると、青森県の農業の将来像をデザインした上で、高校3年間で単独に農業教育をほどこすのではなく、上級学校(営農大学校、大学など)との連携を視野に入れた「スペシャリストへの教育」に方向転換しなければならないと考えている。 また、農場自営を目指す生徒が大学に行った場合、統計的には高卒後の自営率にカウントされず自営率云々と評価されるが、4年後に自営するのであれば最終的には農業高校の所期の目的は達成されることになる。ですから単純に高校卒業時点での数値で学科のあり方を評価することは短絡的なのではないでしょうか？(自営者ほど上級学校に行きなさいと指導している学校が多い) 今後はこのようなこともふまえ、専門高校の統廃合と学科やコースについて検討すべきである。 ・ これまで設置した学科・コース及び系列の今後の在り方考える上でも、卒業生の進路先とその経年変化の分析は重要である考える。多くの生徒が学科やコース・系列の特色にあった進路を選択し、その人数が一定の割合を維持しているのであれば、その学科・コース及び系列は存続するべきであろう。また、可能であるならば卒業後一定期間(2年あるいは4年後位)において追跡調査を行い、進路先の変更がないか確認できれば、より判断しやすい。しかし、進路先が学科やコース・系列の特色と関係がないケースが多かったり、極端な減少傾向を示しているのならば、生徒の興味・関心や社会のニーズとはズレが生じてきていると考えるべきで、学科・コース及び系列の廃止や統合・再編成が必要であると考え。ただし、入学してくる生徒が、学科やコース・系列の特色を把握していることが前提であり、不本意入学の問題と切り離して考えることはできないので、単純に数字だけで判断できない側面があるのも事実である。また、経済的な理由で郡部の生徒が特色ある都市部の学科に入学できない例もかなりあるように思われる。 ・ 社会の変化に対応して3年毎の見直しを含めた検討が必要。 ・ 定員に満たない学科は、弾力化募集等を経た上で、統合あるいは廃止と、地域的配慮を加えながら措置していくべきである。 	

2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
<p>(ウ) 普通科における全日制単位制の在り方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合学科との関連で考える。教える側の体制(専門的配置)ができるか？ ・ 単純に単位制だけを論ずるのではなく、2学期制も同時に考え、9月卒業や10月編入学を容易にできる制度を設ける方が先ではないでしょうか？(2学期制のメリットも十分取り入れるためには・・・) 単位制の導入は否定しないが、近年の多様な生徒の状況からも仲間意識や連帯意識を持たせることは重要で、そのことからHRTの果たす役割が大きいと判断する。 よって、早急に単位制を導入することにより、HRへの帰属意識や連帯感などが希薄にならないように配慮したほうよいと感じます。 ・ 単位制は「学力」「進路志望」面においても学習内容の高低、選択幅の拡大等の可能性をもっており、進学・就職する生徒にとっても有効な制度と思われる。各地区に1校は進学重視型の単位制高校が在ってもよいと思う。 ・ 県内に数校、設置が決定されており、「学力」の向上には成果が期待される。今後については、成果が十分か、生徒間・生徒と職員間のコミュニケーションの度合い、結びつきがどのようになっていくのを見極めた方がよいと思う。学力向上重視で「人づくり」がおろそかにならないようにすべき。 ・ 社会の変化と多様な進路志望に対応することを考えた場合、普通科における全日制単位制は非常に有効な方法であると考え。高校卒業後のビジョンがしっかりしていない中学生にとっては、細分化・専門化しすぎた学科・コースは不本意入学の原因となる可能性があり、基礎的な普通科目を履修しながらある程度の選択科目を履修できる単位制普通科は、多様な進路志望に柔軟に対応できる可能性が高いからである。 ・ 施設・設備、教員配置に制限があるなかで単位制を実施するには相当の労力を要するので中規模以上の学校でなければ導入は難しい。 単位制については、総合学科とのシステム上の違いを明確にしつつ、実態の把握に努めるべきである。 	<p>広い選択内容が可能となるような学科が望ましいが、現状では様々な制約により十分な効果が期待できない、必要性はほとんど認められないという否定的な意見もある。</p>

2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
<p>(工)新しい学科等の設置の必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の変化に対応した新しい学科を作るとは、望ましいことだと考えます。但し、予算や人的配置の問題は避けて通れないことであると考えます。また、新しい学科を作るには相当なエネルギーが必要であり、職員の意識の問題が大変重要であると思います。また、「必要であるから新規に学科を設ける」と言うことは、「必要性が薄くなってきたから既存の学科をなくする」という論法にもつながることでしょう。 ・ (ア)との関連の中で検討。 「新た」の定義？ 再編、改編、改称等は新たか？ その範囲で十分。 ・ 平成17年3月の県全体の職業高校の大学進学率は17%という結果がでている。これが単独の商業高校だけで見れば大学進学率は約19%という結果になる。この現状を踏まえ、高度な専門性を身につけるための高等教育への接続を目指す進学型の専門学科の設立を望む。 ・ 21世紀に必要とされる学科、青森県でなければできない学科(県の人材、人の資源等の利用)は無理でしょうか。 ・ 商業系の専門高校では、ほぼ3つの学科があり、そこで学んだことを生かしてさらに高度な専門性を身につけるために、約10%から20%程度が大学進学をしていることから、進学を目指す専門学科があってもいいのではないかと。 ・ 起業・著作権についての専門的な知識修得及びコンサルタント育成・対応する国家資格等取得を目指す専門学科があってもいいのでは。 ・ これ以上細分化しない方がよいと思う。 当分の間、現在の学科で十分だと思う。 	<p>喫緊の課題や社会の要求が大きいものの、生徒のニーズのあるものを精選し、将来を展望した慎重な検討が必要であるという意見が多いが、既設の学科の統合、あるいは新しい学科の必要性を感じないという意見もある。</p>

2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
<p>(オ)統廃合による、新しいタイプの高校の可能性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細分化・専門化した学科は将来の進路希望が明確な生徒には良いが、多様で流動的な進路希望を持つ生徒にとっては学習意欲を失う原因になりかねないので、新たな学科を設置するのではなく、現在ある学科を統合・再編成することによって教育課程を編成し直し、入学後も多様な進路希望に柔軟に対応できるようにするべきであろう。 ・ 現存の学科の充実を図るのが一番であるが、整理・統合やむなき場合には新学科の検討が必要。 ・ 異なる専門高校の統合については、それぞれの文化の背景が異なるので、ひとつの学校に2つの学校が存在するような「混合」では魅力がないと考える。したがって、新たな性質、文化を生み出すような「化合」のような統合が望ましい。 ・ 統合している他県の例はあるが、大学科間の序列、行事の違いなどスムーズにいかない面も聞いている。また、互いに相手の領域には手を出さない、出せないなど問題点もあるようで、まだまだ試行的な面もあるのではないのでしょうか？ 個人的には、施設・設備の関係(ある程度の学級数がなければ、それに伴う施設・設備が配置されにくい)などの問題もあり、できれば統合せず、ネットワーク的なつながりの中で互いが成長するような方向の方がよいと考えます。 たとえば、農業高校のカリキュラムの中に工業科目がある場合、工業高校との人事交流(専門職の教諭)や講師の派遣、生徒間の研究授業の連携などを充実させた方が現実的である。そのためには単独に存続させる場合既存の学科の統廃合はやむを得ないと、考えている。 ・ 他県の事例を見ると明らかでは、十分あり！ 規模、地域性、希望者数などの条件によって、 最適を検討する必要がある。 	<p>普通高校と専門高校の統合、農・工、農・商、工・商の統合が考えられる。また、専門高校を統合した「産業高校」や、学科・コースを統合した「技芸術高校」、あるいは、高等学校と養護学校分教室の統合、軽度発達障害のための高等学校の設置をという意見もあるが、一方で、少数意見であるが、新しいタイプの学校が、世の中の動きや時代の要請に応えるものとなりえるか疑問であるという意見もある。</p>

2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
<p>(カ) 専門学科の募集方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他県の例を聞くと、教育困難校で人員確保が難しいのが解消できたとか、専門教科に馴染めなかった生徒が他の専門教科を学ぶことによって中途退学をせずに済んだとか、いろいろと成果を上げていることを聞く。本県においても、多様化する生徒の対応、学科を越えての特色ある学校づくりという面から考えても一考する価値はあると思う。 新たな専門高校として、大阪府で計画しているような、英語と情報機器をコミュニケーションツールとして活用し、実験・実習・体験学習を重視し、分野を問わずグローバルな視野に立って活躍できる人材の育成を目的とした国際・科学高校とかは考えられないか。 ・ 他県の状況では、統廃合により、総合学科高校、総合的な専門高校、普通高校、普通科と専門学科併設高校、専門高校の5タイプになっているようですが、専門高校複数の統合では、専門性を重視することからこのタイプがより望ましいと考える。また、農業高校、商業高校、工業高校などの統合により、生産・経営・流通(インターネットを含む)・設備等を総合した新しい視点での教育が考えられる。 ・ 統廃合による、新しいタイプの高校を考える場合は、新校舎の建設が必要であると考え。なぜなら既存の高校の施設・設備を利用する場合は、複数の校舎を生徒・職員が移動する必要があり、学校行事や時間割等でも様々な問題が生じるように考えられるからである。しかし、新校舎による場合でも、立地場所・建設費用の財源等を考えると非現実的に思われる。 ・ 職業高校同士の統合は検討するべきであるが、普通科高校と職業高校の統合は教育課程編成上無理が生じるので好ましくないと考える。 ・ 下北地区にあっては、原子力学科、海洋科学学科、観光学科等が考えられる ・ 各専門学科に共通する「ものづくり」の心の育成、普通教科も含めた基礎・基本の重視、継続教育、入学後の興味・関心・進路希望に応じたその後のコース選択という視点にたてば、高校入学後、ある期間は専門学科にかかわらず共通して学習する必要があるのではないだろうか。 このためには、機械系、電気系などの系単位や、学年全体でのくくり募集がよいと考える。 	<p>現行のとおり学科単位での募集でよいという意見の他に、「くくり募集」の必要性を述べる意見も多い(理数、英語科等も含めて)。前期入試、後期入試の定員比率を再考し、第2志望の在り方について検討(例、前期第2志望を認めない。後期第2志望を認める。)また、3つ以上の学科を設置している学校は、第三希望まで書けるようにしたいという意見もある。</p>

2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状で特に問題はないと考える。高校に入学してから専門科目を履修するわけで、高校入試に専門知識を問うことは望ましいとは考えない。 よって入試制度を普通高校と専門高校(専門学科)に分ける必要性も感じない。入試制度(募集方法)を変えることにより、格差の助長(いわゆる普通高校の進学校、普通高校の就職校、そして専門高校と序列化ができつつある)につながらないことを祈りたい。 しかし、専門高校でなぜ学びたいのか、何の専門を学びたいのか、卒業後の進路は、そして将来はどうなりたいのかを入試の判断材料(数値化)にすることは必要である。しかし、実際的には数値化し選抜することは容易ではない。 ・ 学科毎の応募者のアンバランスが大きく、教育効果が悪いので、括り募集など改善が望まれる。 学科もあるが、学校を選んでいる傾向が見られるので可能と考える。 ・ 中学生にとっては、学科、専門科目等が理解しにくいという面、クラスの固定化を嫌うという面、進路・職業意識が不明確な生徒が多いという面などを考慮すると、1年次においては専門教科の基礎科目を共通履修させ、進路ガイダンス、面接等を経てから2年次から学科を固定させる括り募集の制度や総合募集が望ましい。 ・ 学科選択に柔軟に対応するために、「括り募集」を取り入れ、2年次から学科編成としたらどうか。ただ、専門性を重視する上では、1年次の学習内容に十分配慮する必要がある。 入学時から学科選択が明確な生徒に対する選択履修を取り入れることも考えなければならぬ。 ・ 前の選抜方法のように推薦を先にした方がよいと思う。 ・ 専門学科の場合、生徒の学科の特色に対する理解や意欲・適性が大事なので、各校で独自の選抜を実施できる後期選抜の内容を充実させる必要があると思われる。面接や自己PR・実技試験は有効な選抜方法であるので、後期選抜の募集人数を多くした方がよいのではないだろうか。 	<p>農業高校において就農希望枠として推薦入学させる方法がとれないか、全学科において前期で推薦方式(自己推薦、学校推薦等)、後期で学力検査実施が適切と思われる、という意見もある。</p>

2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業学科の割合が多いので、今後減らす予定のようであるが、青森県は基幹産業は農業であるので、農業高校はこれ以上減らさない方がよいと思う。 ある程度の学級数を確保するためにはやむをえないと思う。 ・ 校舎化による本校との格差が生じないよう配慮すべきで、教員等の連携や生徒間の交流を考えるべきだ。 	